

FOODEX JAPAN 2007 (第32回 国際食品・飲料展)見聞録

本年も3月13日(火)~16日(木)の4日にわたり千葉県幕張メッセで開催されたFOODEXに行ってきた。

FOODEXは、海外に駐在していた時期を除けば、ほぼ毎年自分のテーマを決めて行っている。今年は、中国、米国、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランドの食肉関連企業・団体と話をし輸出国の状況を把握する事だったが、特に自分にとっての一番大きな目的は、最近の輸入にドライブがかかっている中国の豚肉加工製品(ソーセージ、豚角煮、豚丼の具、半加工製品、ギョーザ、シュウマイなどの点心)の下調べであった。じつは、近々中国にこれらの調査に行く予定があったため、まずは、中国のスタンドで食肉・食品加工メーカーに話を聞く事を試みた。

当日は浙江省(杭州)から出展の2社から話を聞く事ができた。内1社はかなり以前から日本向けにソーセージ等食肉加工品を輸出しており、最近さらに輸出量が増えているとの話であった。もう一社は、元々は冷凍野菜の大手メーカーであるが、角煮や、肉じゃが等の野菜と肉の調理済食品の需要が強まっており、需要に応えるべく食肉製品の開発に力を入れているとの事で、日本市場に対する意欲がさらに高まっている事が感じられた。

また中国では、上海などの沿海地区にある大都市では、豪州で肥育された和牛種を使ったステーキ・鉄板焼き・高級焼肉の販売や、大連付近で肥育された雪龍黒毛牛が高級デパートの食品売り場で販売されているなど、輸入・高級牛肉の需要の高まりから、マグロなどと同じ様に将来は日本との買い付けで競合する可能性が否定できないのではないかと。今後日本としては、食肉・水産物およびそれらの加工品の買い付け方と全般的な食料資源の確保のために層倍の努力が必要となるであろう。

中国関係の情報については、我国の焼肉チェーンや外食チェーンも出店を積極的に進めつつある事も考慮して、今後機会があったら掘り下げてレポートしたいと考えている。

牛肉をはじめとする食肉関係の展示も、北米、中南米、オセアニア、EU各国の輸出団体の参加は例年どおりであったものの米国の牛肉展示はかつての盛大な売りこみの印象からは程遠い感じがした。

BSE問題のために米国牛肉の対日輸出は完全に足踏み状態となり、その間にオーストラリアなどが広く市場に定着する結果となり、最近では業界のそこかしこで「アメリカビーフ無しでもまあまあやっていけるのではないか」との声が聞こえるようになった。

一方、総務省の18年次家計調査によれば、日本における牛肉の一世帯あたりの購入量が昭和44年以来はじめて7,000g台を割ったと報じられ、日本の牛肉市場はピーク時(平成6~7年)の45%減となった。これほどの市場縮小は誰も予想できなかったはずである。

このような状況下において、米国牛肉の対日輸出量は生産の増加と共に徐々に上昇に向かうと思われるが、現行の20ヶ月齢以下という基準が足枷となって大幅な輸出増は到底見込めない。これを打開するために米国は国際基準(30ヶ月未満)を日本に認めさせようとあの手この手で圧力をかけ始めているのはご承知のとおりである。

最近の報道によれば、ブッシュ大統領は3月28日に全米肉牛生産者協会で講演し、米国産牛肉の輸出について「政権の目的は日本や韓国などが市場を全面的に開放するよう努める事だ」と指摘するとともに4月下旬の日米首脳会議でとりあげる考えを表明すると同時に「牛肉輸出問題は米国の外交政策の重要な部分」である事を強調した。

また、米国の巨大スーパー、ウォルマートの傘下にある西友が関東地区の20店舗で米国産牛肉の販売を3月31日より再開した。駐日米国大使もオットリ刀で売り場にかけて「オイシイ、オイシイ」を連発しながら懸命にプロモーションに努めた姿をテレビでご覧になった方も多いただろう。イオンやヨーカドーなど他の大手スーパーや一部消費者は未だに慎重な構えを見せているが、今まで米国牛肉の供給難と高価格に悩まされてきた焼肉業界にとっては、明るい話題の一つであろう。

話をFOODEXに戻そう。実は会場でかなり目を引いたのはメキシコビーフだった。米国のBSE問題が発生する以前は、隣国アメリカの陰に隠れていたが、輸入停止以降に輸入数量自体はまだそれ程でもないが、ジワリと存在感を示してきたのがメキシコ産牛肉である。

過去、メキシコ国内では価格が重視された結果、品質についてそれ程考慮されずグラス中心の需要であったため、いきおい赤身中心の生産であった。ところが、米国の輸入停止以降、日本よりの引き合いの増加により最近では上級グレードの穀物肥育牛の生産意欲が増してきているとの事である(輸入大手シンワオックス㈱ 久保課長談)。

実際にショートリブ・チャックリブなどの焼材をみたが米国産に引けをとらないものと感じた。価格によっては、メニュー化をトライしてみても如何だろう。豪州・米国・NZ等の従来の大手輸出国以外にも量的にはまだまだかもしれないがメキシコ・チリなど新興輸出国の台頭による輸入相手国の多様化は、安定供給の意味から外食業界には歓迎できる事ではないだろうか。焼肉業界への新しい食材の供給国として今後おりにふれてレポートしたい。